

### 湿地性カラー「熊本 FC01」での苞褐変抑制は、ミラクルミストの1回処理で良い

湿地性カラー「熊本 FC01」の苞をミラクルミスト 500 倍希釈液に瞬間浸漬（以下ミラクルミスト処理）すると、苞の褐変開始は遅延する。その効果は、1回処理と2・3回処理で差がない。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室（担当者：今村衣里）

#### 研究のねらい

これまでに湿地性カラー県育成品種で収穫後の苞の萎れ・褐変が、苞の部分に対する B A10 0ppm 液または切り花生産者用前処理剤ミラクルミスト（クリザールジャパン（株））の瞬間浸漬処理で抑制されることを明らかにしている（農業研究成果情報 NO.675）。しかし、グリーン系カラーと比べて日持ちが短いため、さらなる日持ち向上を目指して処理回数の効果を明らかにする。

#### 研究の成果

1. 苞の褐変本数の増加は、ミラクルミスト処理で無処理と比べて遅く、全ての切り花で苞が褐変した日は、ミラクルミスト処理で無処理と比べて5月収穫で4日、1月収穫で2～3日遅い（図1、図2、図3）。
2. ミラクルミスト処理回数による苞の褐変本数の差は、1月および5月収穫ともない（図1、図2）。

※苞の褐変本数は、苞の褐変が10%以上に達した切り花の累積本数

#### 普及上の留意点

1. 試験1は、農産園芸研究所の硬質フィルムハウスで畑地栽培した切り花を供試。2020年5月7日および11日に収穫後、切り花長70cmに調整し、吸水処理は水道水を入れたバケツに生け恒温室（10℃暗黒下）で行い、ミラクルミスト処理は切り花吸水中に1回目を採花直後、2回目を採花6時間後、3回目を採花24時間後に実施。
2. 試験2は、県内生産者から購入した切り花を供試。2020年1月21日に収穫後、切り花長60cmに調整し、吸水処理は水道水を入れたバケツに生けて行き、ミラクルミスト処理は生産現場で1回目を採花直後、2、3回目は恒温室（10℃暗黒下）で間隔は試験1と同様に実施。
3. 生け花後の日持ち調査は、恒温室（25℃・12時間照明設定）で、水道水500mLを入れた1L花瓶に切り花を1本ずつ生けて生け水は毎日交換。

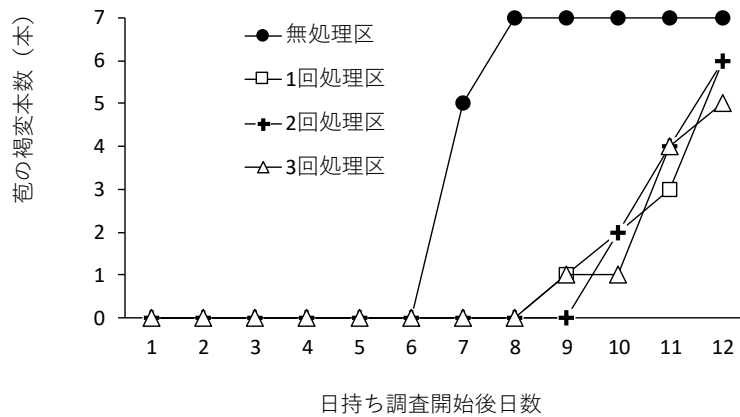


図1 5月収穫切り花におけるミラクルミスト処理回数の違いが苞の褐変本数に及ぼす影響 (試験1)

注1) 試験途中で茎が腐敗した切り花は、調査から除外

注2) 調査期間: 2020年5月9日~20日、5月13日~24日(2反復)

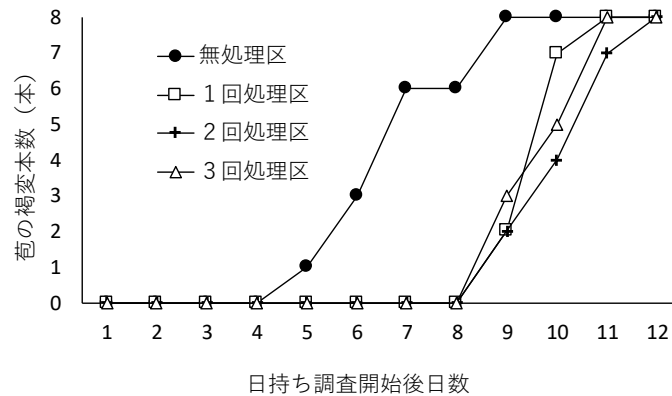


図2 1月収穫切り花におけるミラクルミスト処理回数の違いが苞の褐変本数に及ぼす影響 (試験2) 注1) 調査期間: 2020年1月23日~2月3日



無処理



ミラクルミスト1回処理

図3 ミラクルミスト処理による苞の褐変抑制 (試験1: 日持ち調査開始後10日目)